

## I 事業の概要

「いわての復興教育推進事業」の指定を受け、内陸部と沿岸部の生徒の交流を通して、復興教育に対する理解や関心を深めることを目的とし、軽米中学校1年生67名と普代中学校1年生14名との交流学习を行った。

## II 取組の概要

軽米中学校と普代中学校の交流学习では、主に以下の4つの活動を行った。

### (1) 普代水門、太田名部防潮堤見学

普代分署の方から主に3つの内容の話をいただいた。

- ①普代水門、太田名部防潮堤の役割について。  
震災時においては、普代水門と太田名部防潮堤が住宅地や集落中心部への津波到達を防いだため、死者は発生しなかったこと。被害民家もなく、沿岸部で機能した数少ない水門、防潮堤であったこと。
- ②平成23年3月11日に発生した東日本大震災時に、消防団員がどのように行動し津波から村を守ったか。
- ③自然災害の発生は残念ながら防ぐことはできないので、被害を最小限に抑えるための準備がとても大切であること。



【普代水門見学】

### (2) 村漁業協同組合でのわかめ芯抜き作業

沿岸ならではの生活体験として、わかめの芯抜き作業を行った。内陸の軽米中学校の生徒たちに

としては初めての経験であり、一つ一つの作業を確認しながら真剣に取り組んでいた。普段何気なく口にしているわかめだが、たくさんの手間をかけて加工されていることを学んでいた。普代中学校の生徒にとっては小学校で経験した作業であり、軽米中学校の生徒に教えながら楽しそうに作業に取り組んでいた。また、その他の海産物を保存するための冷蔵庫で-30℃の温度を体感した。



【わかめの芯抜き作業】

### (3) 交流学习

くろさき荘で相互交流会を行った。

普代中学校からは、普代の特産品をもっと知ってもらうために行ってきた販売体験の取組が紹介された。実際に自分たちでメニューを考え調理をし、食材のアピールの仕方を考えたことや、商品を売るために表示を工夫した取組が紹介された。また、小中一貫教育校として、津波災害に備えて小学校と合同避難訓練に取り組んでいることや、普代スクールフェスタ（小中合同文化祭）などの行事を行っていることが紹介された。

軽米中学校からは、今回の交流学习が始まる前から行われていた沿岸訪問学習の経緯が話された。軽米地区は昔から洪水の被害にあうことが度々あり、防災に強い関心を持っていたことがきっかけで、沿岸の防災も学習するためにこの学習が始まったことが話された。

次に普段の学校生活や生徒会活動などの様子が紹介され、最後に感謝の気持ちを込めた合唱が披露された。



【くろさき荘での交流学習】

#### (4) 普代浜清掃

軽米中学校が例年行ってきた普代浜清掃に、普代中学校の生徒も参加した。年々整備され、特に拾わなければならないごみは少なかったが、両校の生徒たちは、浜の美しさや海の恵みを思いながら楽しそうに浜の清掃に取り組んだ。



【普代浜清掃】

#### (5) 生徒の感想

① 今日は、軽米中学校との交流学習でした。始めに、消防署の方から話をいただきました。普代水門や太田名部防潮堤のおかげで、普代村にある家や大切な人命が守られたことを海のない軽米中学校の生徒の皆さんにも知ってもらえてよかったです。

交流学習は、学校の様子や取り組みの様子を紹介しあいました。同じ中学生でも、学校が違くと結構違うことをしているんだなと思いました。よいと思った取り組みは取り入れていきたいと思いました。

交流学習を通して内陸と沿岸の中学校では違うことがたくさんあると思いました。様々な交

流ができてとても楽しかったです。

② 軽米中学校との交流学習はとても楽しかったです。始めはお互いテンションも低くて、おとなしかったのですが、慣れてきたら色々話をする事ができたので良かったです。特にわかめの芯抜き作業の時は、作業のことや学校の様子など楽しく話をすることができました。

くろさき荘での交流では、軽米中学校が合唱を披露してくれました。人数が多い分歌声も大きく上手だなと思いました。

最後の普代浜清掃は、だいぶ整備されてきたので、あまりごみはありませんでした。浜がきれいになっているということなので、いいことだと思いました。

軽米中学校との交流を通して、内陸の中学校の様子や、自分たちの生活を改めて見直すことができてよかったです。

### Ⅲ 取組の成果と課題

#### 1 成果

- ・軽米中学校の生徒は、津波に対する備えや沿岸で生活する人々の様子を間近に見学、体験したことで、防災や復興の現状について理解を深めた。また、自然災害はどこでも起こり得ることなので、事前の心構えや準備が大切であることを改めて学んだ。
- ・普代中学校の生徒は、消防署の方から改めて震災時の様子を詳しく聞き、津波の恐ろしさを再認識するとともに、津波の被害を最小限に抑えた防潮堤に感謝の念を抱いた。また、わかめの芯抜き作業や普代浜清掃をしたことで、自分たちが住む地域の現状を再認識した。さらに、お互いの学校での様子を紹介しあうことで、同じ中学校でもそれぞれの学校生活に様々な違いがあることを理解するなど、交流を深めた。

#### 2 課題

- ・震災（特に津波）に対する認識が内陸と沿岸では全く違うと感じる。限られた時間ではあるが、交流の中で、それぞれの災害に対する備え、災害時の行動や工夫等、テーマを絞って発表しあうべきだったと感じた。
- ・学習のねらい、事前事後学習の内容、当日の動き等を両校でしっかり確認するための時間の確保が足りなかった。今年度の実績を踏まえ、次年度は確保したい。